

## 第3章

# 文京区の目指す観光と基本方針

### ① 文京区における観光ビジョンの理念と目標

#### (1) 文京区観光ビジョンの理念

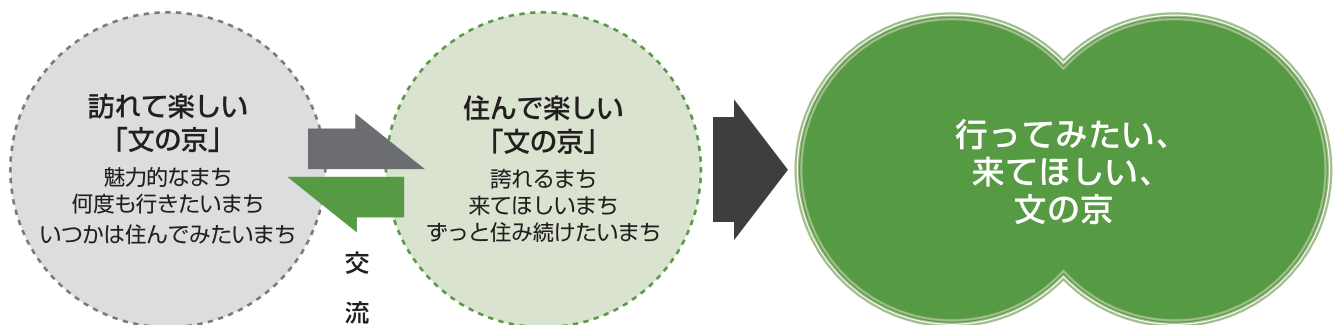
あふれる緑や四季の花々を「見る」、下町情緒を残すまちなみで「遊ぶ」、歴史・文化を「学ぶ」など、様々な楽しみの要素を持つ観光資源が豊かな文京区は、来訪者をひきつけるだけでなく、区民にとっても満足度の高いまちです。

観光振興においては、来訪者と区民との交流によって、新たな価値を創出することが重要です。来訪者にとっては、区民と交流することが自身の変化につながり、区民にとっては、来訪者の視点を通じて地域の質を高め、その良さを再認識することです。

「来訪者が魅力的に感じ、何度も行ってみたいと思うまち」と「区民が誇りに思い、いつでも来てほしいといえるまち」を目指し、来訪者と区民の視点から「行ってみたい、来てほしい、文の京」を文京区観光ビジョンの理念とします。

**「行ってみたい、来てほしい、文の京」**

本区には、まちあるき、通勤・通学等様々な目的を持った人々が訪れています。生活の場、交流の場として、高い可能性を持つ本区は、観光振興を通じて区民と来訪者が共に満足できる観光まちづくりに取り組み、「区民にとっても来訪者にとっても安全・安心なまち」「いつかは住んでみたいまち・ずっと住み続けたいまち」と思われるまちを目指します。



## (2)文京区観光ビジョンの目標

理念を踏まえた観光ビジョンの実現に向け、3つの目標を掲げます。

### ①四季折々の魅力をもった文の京

本区は、都心部においても緑が多く、自然に恵まれた地域です。住宅街の路地や庭先の身近な緑、江戸時代の大名庭園であった小石川後樂園や六義園、あるいは大学のキャンパスなど、様々な自然にふれることができます。

梅、桜、つつじ、あじさい、菊と四季の花をテーマにした「文京花の五大まつり」をはじめ、寺社の節句の行事等、1年の流れを感じることができる祭りや催しが多くあります。

四季それぞれに違った表情を見せるまちは、何度訪れても新たな発見があります。これらのまつりは、花や自然を愛でるだけでなく「時」を豊かに過ごす本区の暮らしの象徴であり、大切な地域固有の文化です。

また、このように身近な地域環境に気を配ることは、今日的なテーマである環境問題への意識を高めることにもつながります。

地域の魅力を高め、来訪者や区民に楽しさを伝えることにより、「四季折々の魅力をもった文の京」の実現を目指します。



## ② おもてなしの心溢れる文の京

来訪者にとって訪問先で交わす区民との挨拶や会話は、その地域を印象づける出来事です。来訪者と区民との心のふれあいは、大切な思い出となり、さらには「また行きたい」と思わせる魅力の一つです。

区内には、町会や自治会といった地域の住民組織の他、文化やスポーツ等の生涯学習を行う団体が、めくもりある地域社会の実現を目指して、熱心にまちづくりに取り組むなど、区民同士のつながりを大切にしています。「人と人とのつながり」を重視する取り組みを進めることは、高齢者、障害者、外国人等あらゆる人々にやさしいまちづくり、来訪者をあたたかく受け入れるまちづくりにつながっていきます。

また、来訪者を迎え入れるにあたっては、安全・安心であることやすべての人に配慮した環境づくりも大切です。

このように様々な側面から、来訪者と区民が交流を深めることで、理解と信頼関係を築き「おもてなしの心溢れる文の京」の実現を目指します。



### ③歴史と文化を大切にする文の京

本区は、江戸時代には大半が武家地であったことから、その跡地に多くの教育機関があります。また、大名庭園は、その一部が今もなお豊かな緑地として残っています。明治・大正時代には、森鷗外や夏目漱石をはじめ多くの文人がこの地に住み、創作の場となりました。そして今も、区民の日々の暮らしや、大学等教育機関の知的活動の結果として、新しい文化が日々蓄積されています。

このような、歴史の深み、幅広い文化資源の存在は、まちあるきなどを楽しむ来訪者にとって重要な魅力としてアピールしています。

本区は、これまでに創造された歴史と文化を次の世代へと伝えていくとともに、新たな文化を生み出し、積み重ねていく「歴史と文化を大切にする文の京」の実現を目指します。



## ② 文京区観光ビジョンの基本方針

「四季折々の魅力をもった文の京」「おもてなしの心溢れる文の京」「歴史と文化を大切に  
する文の京」という3つの目標を実現するための基本的な考え方として、次の3つの基本方針  
を定めます。この基本方針に沿って、具体的な取り組みを進めていきます。

### (1) まちあるきを促進することにより文化・産業を活性化させる

本区の観光資源は、区民の生活環境に点在しているものが多く、歩いて訪ねる「まちあるき」  
に適しています。「まちあるき」の楽しみは、限られた情報を頼りにまちを探検することと言  
い換えることができ、自分なりの視点でまちの魅力を発見することでもあります。

「まちあるき」は、まちなかに残された文化的な資産を保存・活用していく上で重要な意義  
を持ち、地域の文化を活性化させる大きなきっかけとなります。また、都市の観光におい  
ては、「食べる」「買う」という消費行動は「まちあるき」の魅力の大きな部分を占めています。  
本区においても、工夫次第でこのような消費行動につなげることが可能であり、地域経済の  
活性化にも貢献するものです。

このように、まちあるきを楽しむ来訪者を念頭に、区民と来訪者の交流によって文化・産業  
の活性化を図ることが1つめの基本方針です。

### (2) 住んでみたい、住み続けたいまちを実現する

本区は、交通の利便性や教育機関の充実度、自然環境の豊  
かさなどから、「住んでみたいまち」といわれています。近  
年の観光活動では、来訪先の生活文化が魅力要素として大  
きな比重を占めつつあり、区民の暮らしぶりも、来訪者を  
ひきつける上で重要な要素となっています。

来訪者にとっては「住んでみたい」、区民にとっては「住  
み続けたい」と感じさせるような地域の魅力を創出するこ  
とが求められており、来訪者・生活者双方の視点にたった  
地域づくりに取り組むことが2つめの基本方針です。



### (3)多様な主体がそれぞれ担い手となる

観光振興の担い手は、旅館等の宿泊施設や、観光施設、観光協会だけではありません。行政、商店街、区民等、地域の全ての人々が、来訪者を迎え入れる当事者として、観光ビジョンの理念を共有するとともに、その担い手として活躍することが重要です。

そのためには、多様な担い手が観光振興の意義とそれぞれに求められる役割を理解したうえで、自立した担い手として積極的に取り組んでいくことが3つ目の基本方針です。

